

銀漢亭日録



伊藤伊那男

12月22日(木)▼九時、「あ・ん・ど・うクリニック」。血液検査の結果聞く。血糖値危険水域、いや若干越えた。「昨夜は夜中一時過ぎに、牡蠣フライ三個、白子のボン酢で日本酒……うどん少々」と答えると、「確実に糖尿病の道を目指していますね!」「正月休みにゆつくりと考えて下さいネ」と。店は年内営業最終日。三輪初子さんアルバイト最終日とて常連がプレゼントを持って。法政大学の高柳先生三人。仲間がその三人に俳句を作らせている。二十二時、無理矢理閉めて帰宅。孫の亮ちゃん結局インフルエンザと!山形の菅原庄山子さん逝去の報。ご家族より入る。九十三歳と。「銀漢」誌の支援者であった。昨年、「銀漢」で羽黒訪問の折り、自分で車を運転して大量の庄内柿を届けて下さったのが、お目に懸かった最後であった。先月も「松例祭」の資料を送って下さったばかり……。深謝。

23日(金)▼四時半起床。品川発六時半位の新幹線に乗車。朝日を浴びた富士山に一年を感謝! 名古屋できしめんの朝食。仲間と合流して近鉄で「忍者修行の里 赤目四十八滝」へ向かう。雨中ながら見応えあり。駅に戻って三駅先の榛原にて東吉野村「天好園」迎えのバス。大宇陀かざろひの丘万葉公園、丹生川上神社、石鼎庵(原石鼎旧居)などを巡り、十七時、天好園。「たかすみ温泉」に浸かり、十八時半、五句出句締め切り。朝妻力さん入れて二十七名。夕食は、茨木和生先生差し入れの鮎鮓。例の超のつく特上品。しみじみと近江の味。電話でお礼。鯉の洗い。猪鍋の脂身のうまいこと! 熱燗に風邪が吹き飛ぶらしい。二回目の句会の人を残し、二十二時、地図を掂げながら寝る。

24日(土)▼六時半、皆は近くの大山祇神社へ。散策の様子を布団にご招待いただく。巨大カラスミ、毛蟹、きんき煮付け、のどくろ一塩、鮑バター焼き……。なんとも凄い寿司店。二十二時帰宅して娘夫婦と小酌。

30日(金)▼七時八分、東京駅発「とき」特急いなほ」を乗り継いで鶴岡。武田禪次、柊原洋征。武田さんの令嬢菅原真理子さんの車で「寢覚屋半兵衛」。麦切と蕎麦合盛りで竹の露。あと酒田の南洲神社へ。丁度、荘内南洲会の阿曾昇常務理事がいて、柊原さんが鹿兒島出身だというと記念館を開けてくれる。庄内藩と西郷さんの関係資料を見ながら説明を受ける。感銘多々。「ホテルトイン鶴岡駅前」に入り、二時間昼寝。十八時、「知音」の行方克巳、梶山かおり夫妻、真理子さんのご主人とで「韓国家庭料理 ミヨンドン」へ。チヂミ、プルコギ、チャプチェ、ナムル……。マッコリもうまい。あと近くのバー。鶴岡発祥というカクテル「YUKIGUNI」など。各々の話が面白い。

31日(土)▼十時発。玉川寺の雪の庭園。「羽黒山 三光院」訪問。柏谷容子さん、院主の典海さんの歓待を受く。十五時前、羽黒山参籠所「齋館」に荷物を置く。その後は、典海さんが最後まで祭の一部始終をご案内下さる。宮野宮司にも貴賓室で面談。松例祭の本殿、蜂子神社での玉串奉典も私と行方さんが呼ばれる。松聖の位上(冬の峰の修行をする修験者の一人)とも挨拶。長老衆が宮澤の映画『うみやまあひだ』を見ていて、義父の私がいると知り、控室に呼んで下さる。普通の旅人では解らない祭の様子を合理的なポイントに絞って案内して下さった典海さんに感謝。松聖のいる補屋(しつらえや)では、「親玉」(とんぶりの実をまぶした大きな握り飯)、燗酒、煮物などを戴く。松聖を囲んでの祭衆の直会「にしの寿司」まで拝見して二時就寝。

1月1日(日)▼齋館から、日本海に浮かぶ飛鳥が見える。七時、朝食。大きな餅が二つ入った山菜雑煮。みず、青菜、ごぼうきん

から見送る。朝食うまし! 茶粥一、ごはん二。芳名帳求められ「宇陀も奥冬露に浮く屋敷神」。天好園のバスにて長谷寺へ。菅原道真公を祀る興喜天満神社。元伊勢の一つであったかもしれない地。正午、長谷寺山門で今日から参加の方々も合流。草餅の昼食。あと、雄略天皇の故地、白山神社(朝倉宮伝承地)まで歩く。更に舒明天皇陵を訪ね、今日の行程終了。二上山に沈む夕日を見ながら奈良へ。「ホテルフジタ奈良」に荷を解き、すぐ「蔵」へ。蔵貸し切りで三十五名。五句出し句会。料理良し。酒は「風の森」。二十三時就寝。

25日(日)▼六時に集合し、春日大社参拝。戻って朝食。茶粥良し。八時過ぎの近鉄にて信貴山へ向かう。二十三人。胎内くぐり、祈禱。参道の食堂で五句出し句会。近鉄をつないで井蛙さんと京都へ。十七時、いつもの店。和田ちゃん、川村悦子さんと待ち合わせ。ぐじ、牡蠣。刺し身は特によこわが佳し。鉄皿(てっさ)その他その他。あと宿の「からすま京都ホテル」のバー。二十三時就寝。健全!

26日(月)▼曇天。ホテルで朝食。九時半、八坂神社に井蛙さんと待ち合わせ。石堀小路、東寺の塔などを散策し、大谷祖廟の妻の実家の墓などにお参り。長楽寺を訪ね、一遍上人像に感激。十二時、聖護院の「河道屋 養老」で浅酌。旅を終える。

27日(火)▼終日、原稿書き。家族は軽井沢。夜、宮澤が戻る。莉子が群馬県鹿沢のスキー合宿から戻る。三人で「韓国料理 李朝」でサムゲタン、プルコギ、チヂミなど。マッコリ。

28日(水)▼四時起き。集中して二月号の原稿全部書いて各担当者に投函。店の十二月の月次表作成。

29日(木)▼雑用。十時、新宿駅に武田さんと落ち合い、私のエッセイのゲラ刷りを受ける。一部、吉田類さんに送り、校正など。十八時、亀戸駅に水内慶太さんと待ち合わせ。「すし屋の弥助」

びら、白滝の鱈子まぶし、なめこ大根おろしの酢の物。合祭殿参拝のあと「なの花温泉 田田」で入浴。初風呂。昼、酒田ラーメン。黒い聖母の教会(カトリック鶴岡教会天主堂)に寄りホテルへ。水内慶太さんより鶴岡入りの連絡入り、二時過ぎ、駅で落ち合う。元旦昼から飲める店を探してタクシード探すがなかなか無い。ようやく「三幸」という寿司屋を見つけて二時間ほど飲む。十六時半、三光院の典海さんも来て下さり、八人の新年会「庄内ざっこ」。これはもう唸るしかない料理。のどくろの刺し身、どんがら汁が特に印象深い。

2日(月)▼たっぷり寝る。九時四十分、水内慶太氏と会い、さてどこへ行こうか、ともかくタクシードに乗り、延々と走り、遊佐の鮭瀬上地、月光川の箕輪や、神秘の泉「丸池様」へ。川の透明度、丸池の水の色には息を飲む。空港で水内氏降り、私は鶴岡駅へ。二時間ほどのタクシードの旅。水内氏、昨日昼に来て、店をセツトして一緒に酒を飲み、全ての金を払い、タクシード丸池だけを見てタクシード代を払って昼の便で帰る。不思議な人である。「いなほ」で新潟に出て一時間ほど飲み、十九時帰宅。

3日(火)▼エッセイ集の校正、調整。莉子はスキー合宿。あとの家族は、山梨の両親を訪ねたあと湯沢へスキーに。

4日(水)▼「俳句」三月号の盤水特集へ弟子としての文章。昼から食材調達をして「銀漢亭」。清掃と料理の下拵えなど。戻って食事。あれやこれや残った料理。

6日(金)▼銀漢亭初仕事。常連さん来て下さる。「大倉句会」あと十九人。永山優仔さんから到来の樽酒開ける。いろいろな料理、酒を持ち寄って下さる。

7日(土)▼年賀状替わりの寒中見舞い、およそ三百枚ほど出す。大山かげもと句集の跋文の校正など。夕方、宮澤が戻ったので二人で酒盛り。